

資 料	水－２
作 成	水道局総務部
提 出	令和８年１月２２日

国際技術協力の取組について

札幌市水道局

A central illustration featuring a globe with a sun above it. Six diverse people are shown interacting with the globe: two at the top (one with a blueprint, one with a laptop), two on the sides (one with a blueprint, one with a laptop), and two at the bottom (one with a blueprint, one with a laptop). Dotted lines connect the people around the globe, symbolizing global collaboration. The background includes stylized clouds, a bridge, and a cityscape.

国際技術協力の取組について

札幌市水道局 総務部企画課

第2次札幌水道ビジョンにおける位置付け



水道局が国際技術協力を行う理由



・人材育成と技術継承

グローバルな視野や課題解決力、指導力、コミュニケーション力などを備えた、高い技術力や先進的知見を持つ職員の育成の絶好の機会

・国際貢献～札幌の水道技術を世界へ

JICA事業により、開発途上国における安全で清浄な飲料水確保に取り組む

・持続可能な開発目標（SDGs）の推進

札幌市は2018年にSDGs未来都市に選定され、SDGsの理念や視点を踏まえた事業運営をしていく（目標3・5・6につながる取り組み）

これまでの活動実績



1 長期・短期専門家派遣(S45～H16, R6～R7)【国土交通省等からの要請】

長期14人（派遣期間1年以上）（～H11）／短期33人（派遣期間1年未満）

派遣国：インドネシア、タイ、ネパールなど

2 受入研修(S50～R7)【JICAからの要請】

現在までに約130か国/約1,500人の研修員を受入

寒冷地上水道技術コース(H7～H24)／漏水防止コース(H1～H3)

上水道施設技術総合B(H5～R7)【JICA課題別研修】

3 相互派遣研修(H3～H25, H28～H30, R4～R7)

瀋陽市技術交流(H3～H25)【友好都市交流の一環】

技術協力事業(H28～H30：モンゴル, R4～R7：ネパール)【JICA草の根】

上水道施設技術総合B(H5～R7)【JICA課題別研修】

JICA（国際協力機構）からの要請に基づき
開発途上国の水道技術者向け研修を毎年実施。

（費用負担：JICA）

- 研修期間：約8週間（6月下旬～8月上旬）
- 定員：10名程度
- 近年の受入国：インド、ネパール、スリランカ、カザフスタン、セネガルなど、アジア・アフリカ地域が中心
- 研修内容：浄水技術、送配水管の維持管理、漏水防止など、水道事業のノウハウを幅広く学ぶ

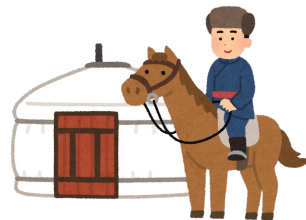


技術協力事業(H28～H30, R4～R7)【JICA草の根】

水道局から技術協力を提案する事業（費用負担：JICA）

<モンゴル国(H28～H30)>

ウランバートル市を対象に、送配水機能改善計画の策定を目指して、必要な技術を身に付ける人材育成を行った。

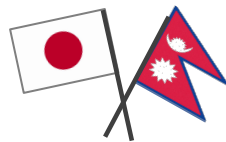


<ネパール国(R4～R7)>

ポカラ市を対象に、漏水対応と水質管理に関するマニュアル作成と、研修講師の育成を行った。



JICA草の根技術協力事業（R4～R7） （ネパール国ポカラ市対象）



▶ 事業名

JICA草の根技術協力事業

「ネパール国ポカラ市給配水管理業務の体系化を目指した技術協力事業」

▶ 事業期間

約3年間（R4年2月～R7年1月）（前半：オンライン、後半：相互派遣）

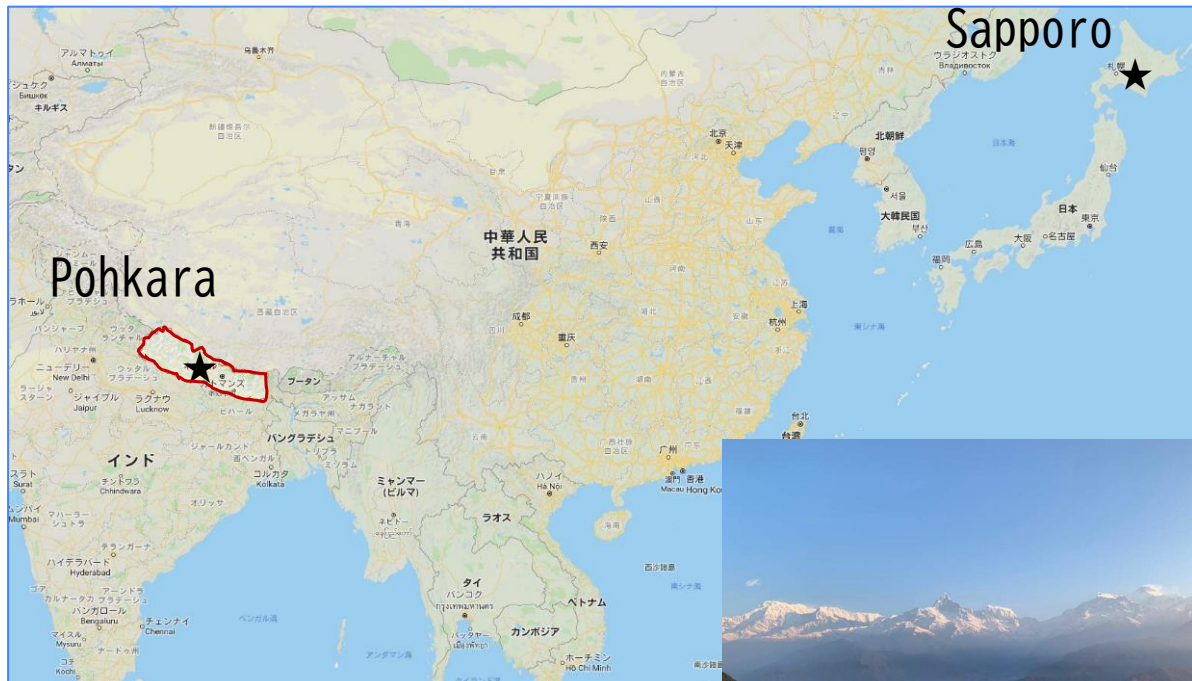
▶ 対象

ネパール水道公社（NWSC）ポカラ支所

▶ プロジェクト目標

ポカラ市内で選定したモデルエリアにおける給配水管網ネットワークにおいて、水道水の質・量の維持管理に必要な業務が体系的に継続して実施される。
（ネパール国内の他のJICA事業と連携して実施）

ポカラ市の概要



カトマンズに次ぐ
ネパール第**2**の都市
(人口約**51**万人)



札幌から約**5,300**km



時差：**3時間15分**

▶ ヒマラヤ山脈のトレッキング玄関口として、世界中から多くの観光客が訪れる



ポカラ市水道の課題



▶ 漏水に関すること

- 水道管からの漏水が多発
- 料金にならない水（無収水率）が約40%
- 漏水修理も効率的に行われていない



▶ 水質に関すること

- 水質検査が適切に行われていない
- 雨季には濁った水がそのまま家庭に配られることもある

活動計画

- ▶ 水道水の「量」と「質」をしっかりと管理できる仕組みづくりを目指す

①策定



- ・漏水対応マニュアル、
水質管理計画の策定

②承認



- ・ポカラ支所長、GM承認

③実践



- ・ポカラ支所、NWSC組織内
での実践

○ オンライン研修

○ 相互派遣（R5年8月～）

- ・ 札幌研修 : 2回実施、延べ17人の研修員受入
- ・ ネパール研修 : 3回実施、派遣延べ人数（水道局23人、一財）さっぽろ
水道サービス協会4人、札幌市管工事業協同組合2人等）

札幌での研修（来日研修）



▶ 漏水対応

- ・漏水を見つける技術や修理の方法を実習し、作業の「マニュアル」案を作成した。



▶ 水質管理

- ・水質検査のやり方などを実習し、水質管理の「計画」案を作成した。

ネパールでの研修（現地研修）



▶ 漏水対応

- ・実際にポカラの市街地で、漏水場所を探す実習を行った。



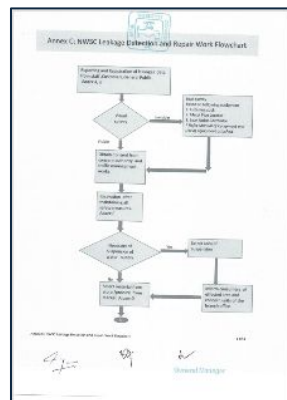
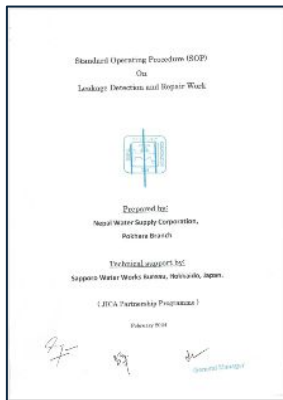
▶ 水質管理

- ・作成した計画案に基づき、現地で水を採取して水質検査を行った。

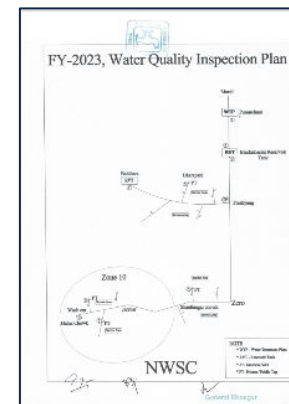
活動成果 1



漏水対応マニュアル



水質管理計画



▶ マニュアルが完成！

➡ 「漏水対応マニュアル」と「水質管理計画」を一緒に作成し、活用が開始された。

活動成果 2



- ▶ 教えられる人が育った！
- ➡ 研修を受けたメンバーが、今度は講師となって他の職員に教える（OJT）活動を実施した。



- ▶ クロージングセッションの実施！
- ➡ 現地にてこれまでの活動成果の発表を行い、無事に事業が完了した。

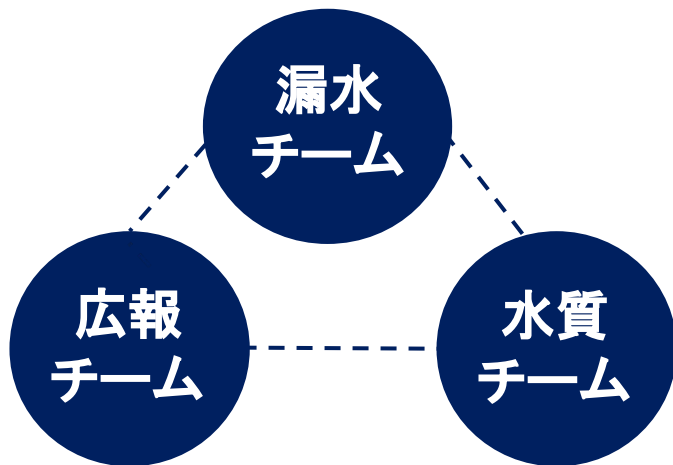
札幌市における広報活動

- ▶ HPへの掲載・市民向けイベント
- ▶ 夕方のニュースで放映 (HTB)
- ▶ 新聞掲載 (北海道新聞)



取材の様子

参加した札幌市職員の声



現地の要望に沿うためには何をすべきか、
何ができるかを考えることが自身の成長に繋がった

他部署の職員との繋がりができ
コミュニケーションが円滑になった



今後の展望



次のステップへ

ポカラ市における「水の配り方(断水頻発)」と「水質(残塩管理等)」をさらに改善する必要があり、次の支援活動について、JICAへ提案書を提出。

【提案内容】

- ・配水調整による断水時間の縮小、水質管理体制の強化

➡ R8.3月に採否が決定し、早ければ来年度から第2期事業がスタートする。



わたしたちの役割

今後も札幌の水道技術の強みを生かし、世界の水問題の解決に貢献しながら、札幌市職員の人材育成に取り組む。

ご清聴ありがとうございました